



株式会社さびら

教育旅行・平和学習 事業のご案内



一緒に知ろう。
沖縄のこと、
私たちのこと。



株式会社さびら

住 所 : 〒900-0021 沖縄県那覇市泉崎1丁目17-13 高橋ビル A302
Email : savira@savira.co.jp
TEL : 098-953-6578
Web : <https://www.savira.co.jp/>

ゆたさるぐとう、うにげーさびら。 ぬちぬぐすーじさびら。

「株式会社さびら」は、教育旅行・平和学習事業と編集プロダクション業を中心に地域や文化関係に至るまで、さまざまなプロジェクトを手がけています。

中でも平和学習事業は、沖縄戦や米軍基地問題に関連した現地を巡るガイドプログラムと、問題について考え、議論を深める独自のワークショップ・プログラムを展開しています。

参加者が「平和とは何か」について深く思考し、過去の事例から学んだ上で、今の社会問題に向き合うための「体験学習」を提案いたします。

1

プログラムは学校の要望に応じてオーダーメイド対応

2

2時間～数日間まで受け入れ対応可能

3

修学旅行当日の学びを深める事前、事後学習が可能
(対面またはオンライン実施可能)



株式会社さびらの
平和学習プログラム





オーダーメイド型での平和学習のご提案

『沖縄戦について』・『基地問題について』

株式会社さびらの平和学習は、コースごとに多岐にわたるプログラムを用意しております。各学校のご希望に沿ったオーダーメイド型・探求プログラムを提案しています。沖縄戦、米軍基地問題を入り口に、平和に対して自分ごととして向き合い、これから自分たちに何が出来るかを考える体験を提供いたします。

1

「沖縄戦フィールドワーク」



実際に戦跡を巡り「見て・感じて・触れて」学ぶことで、「自分ごと」として沖縄戦に向き合える体験学習を提供します。ガイド中にはクイズや意見交換を行うなど、参加者のアウトプットとインプットを交互に行い、学びと理解を深く落とし込みます。

▶ ABOUT 実施場所：沖縄島南部・中部を中心とした戦跡
所要時間：120-180分
参加人数：10~200名

2

「沖縄戦ディスカッションプログラム」

沖縄戦を学んだことで得た気づきを整理し、「平和を作るため」に必要なことについて考え、参加者同士で意見交換を行うことにより、平和の担い手としての主体性を育てるプログラムです。

▶ ABOUT 実施場所：ホテル会場、会議室など
所要時間：60-90分
参加人数：10~200名



沖縄県内の学校でのワークショップ開催事例

アート × 沖縄戦

沖縄戦体験者が描いた戦争の絵を見ながら、感じたことや発見したことを挙げ、絵が描かれた背景を全員で考える対話形式のワークショップです。

住民の戦争体験
ロールプレイワーク

沖縄戦中に住民が巻き込まれた出来事をロールプレイ化し、住民の戦争体験について学びます。「自分が沖縄戦当時を生きていたら、どの選択をするのか」。当時の人々が迫られた生きるための選択と同じ選択肢を投げかけることで、戦時中の「誰か」と自分とを重ね合わせる追体験を行うワークショップです。

実際のワークショップ風景例



修学旅行向けの各プログラム紹介

※所要時間は60-120分を想定しております。
※戦跡の場所やプログラムによっては人数制限がございます。



平和の礎ガイド実践プログラム

(平和祈念資料館、平和の礎等)

平和の礎に刻銘されている方について資料館で調査し、生徒自らガイドを行う体験型のプログラムです。



学徒の足跡をたどるコース

(沖縄師範健児の塔、荒崎海岸、白梅の塔)

生徒と同じ世代である鉄血勤皇隊や白梅学徒隊、ひめゆり学徒隊について知り、当時の学校や社会がどのように戦争に向かっていったのかを学ぶプログラムです。



振り返りディスカッション

(ホテル会場、会議室など)

グループごとにファシリテーターが同じテーブルにつき、資料館や戦跡で気づいたことや体験したことを表面化し、学びを深めていくプログラムです。



1 「基地問題フィールドワーク」



エリアごとに基地問題について学ぶコースを設定。
米軍基地について多角的に捉え、実際に現地を訪れることで分かる問題や課題について学びます。

▶ ABOUT 実施場所：普天間基地、嘉手納基地周辺
所要時間：90-120分
参加人数：10-200名



2 「基地問題ディスカッションプログラム」

フィールドワークで、米軍基地と隣接する地域を訪れた後に行うプログラムです。オリジナル教材を使用し「基地”問題”とは何か」について論点を整理し、問題の本質について考える場を提供します。



▶ ABOUT 実施場所：ホテル会場、会議室など
所要時間：60-90分
参加人数：10-200名



おすすめプログラムのモデルコース紹介

修学旅行での学びをより深く理解し、定着しやすいものにするため、本研修に併せて事前/事後学習を取り入れることをおすすめしております。

事前学習

本研修に沿った内容を講話形式で学び、現地研修への生徒の姿勢づくりを行います。

本研修

沖縄戦跡や米軍基地を視察するフィールドワークに加え、ディスカッションも取り入れて平和学習トータルでサポートするプログラムがおすすめ。目的に沿って順番を入れ替えることも可能です。

事後学習

修学旅行後も学びを深め続けるための生徒同士での対話を重視したプログラムを行います。

知らなかった！
知れてよかった！



もっともっと
知りたくなった！

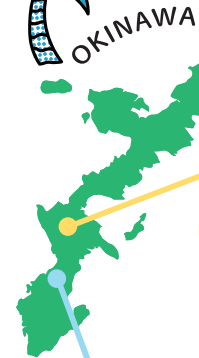
オーダーメイド型での平和学習のご提案

『沖縄戦について』・『基地問題について』



修学旅行向けの各フィールドワーク紹介

※所要時間は60-120分を想定しております。
※戦跡の場所やプログラムによっては人数制限がございます。



KADENA



嘉手納基地エリア

- ・嘉手納基地一周コース
- ―道の駅かでな
- ―アメリカンビレッジ
- ―沖縄市戦後文化資料展示館ヒストリート



FUTENMA

普天間基地エリア

- ・沖縄戦～基地問題までを考えるコース
(嘉数高台公園、上大謝名地区、宜野湾市博物館...等)
- ・基地のある生活を体感するコース
(佐喜真美術館、沖縄国際大学、上大謝名地区...等)



インタビューさせていただきました。

実施プログラムのご紹介

深い探究意欲や、

物事に対する多角的な捉え方がさびらさんのプログラムを通して、

生徒の中に生まれたと感じています。

Q) さびらを選んだ理由は？

A) 参加者が能動的に考えることができるプログラムを実施していたからです。さびらさんは「こういうことを伝えたい、考えてほしい」という視点を、各プログラムの至るところに組み込んでおり、話す内容や質問を投げかけるタイミング、移動中の会話のやりとりなど、様々な場面で生徒が問題に対して考えるための間口を広げ、思った疑問を何でも話していい雰囲気を作りながら進行してくれます。教員も生徒と同じ目線で学ぶことができ、共に問題意識を持って取り組めたプログラムだったので、そうした意味でも全面的にお任せできます。



中央大学附属高等学校
川北 慧 教諭

中央大学附属高等学校の実施プログラム紹介

12:00 「生徒と対面、自己紹介、アイスブレイク」

13:00 「アブチラガマにて入塚体験」

沖縄戦、住民が避難していたガマで起こった出来事を学び、戦中の軍隊と住民が置かれていた状況について考える。

14:30 「ひめゆり平和祈念資料館」

生徒と年齢の変わらない学徒隊について知り、沖縄戦をリアルに感じてもらう。

15:40 「荒崎海岸」

ひめゆり学徒の足跡をたどる追体験ロールプレイ。学徒隊、住民、日本軍とそれぞれの立場別に「自分だったらどうするか」といった視点で沖縄戦について向き合うワークショップ。



18:00 夕食

19:00 「振り返りディスカッション」

学んだことを振り返り、明日への導入の時間とする。

Q) プログラムに参加した生徒たちの反応はどうか。

A) 社会問題に対して「どう主体的に関わり考え続けていくか」という姿勢作りをしていただいたのが、生徒たちにとってすごく良かったなと思います。顔合わせの時にさびらの皆さんが「この時間が終わったら、考えることを止めていいわけじゃないからね」っておっしゃっていたことが生徒にとって大きかったようで、社会問題に対して「知った以上は自分ごととして引き受けなければいけない」という意識が芽生えたと感じています。

自分の身の回りにある問題に対しても、「当事者としてどう関わるか」という、深い探究意欲や、多角的な捉え方がプログラムを通して、生徒の中に生まれたと感じています。物事を考え続けるきっかけを与えてくれるところが、他とは違うところだと感じます。実際に修学旅行を終えた後には、能動的に動く生徒が増えており、大学の学習プログラムに参加したり、平和学を学べる大学に進学した生徒も出ています。

正則高等学校の実施プログラム紹介

19:30~20:00 「パネルディスカッション」



2クラス合同で開催。ファシリテーターの自己紹介や事前に先生と考えたトピックで沖縄県民を取り巻く基地問題や歴史の様々な背景や、意見のグラデーションを知る。

20:00~21:00 「クラスごとに座談会」



ファシリテーターの活動や想いを知ってもらった上でクラスごとに分かれて生徒からの質問に答えたり、生徒が出した質問をクラスで一緒に考える座談会を実施。

Q) さびらを選んだ理由は？

A) 沖縄の若い世代の方々と、沖縄戦と基地問題を中心に意見交換が出来る場を求めている中、さびらさんにたどり着きました。生徒たちが修学旅行を通して感じた沖縄を取り巻く問題に対して、パネルディスカッションと座談会のプログラムを行い、多角的な視点から話を引き出しつつ、一つずつ噛み砕いて説明していただいたことで、生徒自身の考えや学びを整理する時間が持てました。

修学旅行前までは、生徒も沖縄を取り巻く問題に対して「どこか遠い世界の話し」というふうにとらえてしまいがちでしたが、近い世代の方が、問題構造を自分たちの生活と繋げて話されていることで「自分の日常の中に地続きになっている問題」として捉えるようになった子が増えた印象です。プログラムを受けている最中に生徒たちの顔つきが変わっていくのを目の当たりにして、そういう変化に当日は驚きました。



正則高等学校
佐藤 陽子 教諭

その日での質問など即座にプログラム内に反映、
とにかく何度も言葉を交わしながら実施していただけることで、
安心感がありました。

Q) さびらのおすすめポイントがあれば、教えてください。

A) 問い合わせから実施に至るまでの細かいフォローがとてもありがたかったです。例えば事前打ち合わせでは、実施に向けて私たち学校側の要望と、生徒が今まで取り組んできた学習内容を確認してもらった上で、オリジナルのプログラムを作ってくれました。当日も直前まで担任の先生たちと、修学旅行中に生徒が学んだ内容やその日での質問などをヒアリングして、即座にプログラム内に反映させていただくなど、とにかく何度も言葉を交わしながら実施していただけることで、安心感があり、他校の皆さんにもおすすめできるポイントです。

ご予約から
実施まで

お問い合わせ / 仮予約

仮予約では希望日程と参加人数、ご希望のプログラムを確認し、日程の仮押さえを行います。

本予約

受注確定後、参加日時人数など変更確認の上で、本予約となります。

ヒアリング

担当教員にヒアリングを行い、修学旅行での学習プログラムをカスタマイズします。

実施

添乗員・教員のみなさまと連携して安全に配慮し、充実した運営を行います。

事後処理

実施直後にアンケートのお願いと、全日程終了後に、精算のご連絡をお送りします。



教育旅行チームメンバー紹介

安里 拓也 あさと たくや

沖縄県那覇市出身。1998年生まれ。
大学1年生の時にベトナムを訪れたこと
をきっかけに、平和学習活動を行う。
主な経歴
「第2回 ひめゆりを伝える映像コンテスト」
ひめゆり映像賞受賞。



狩俣 日姫 かりまた につき

沖縄県宜野湾市出身。1997年生まれ。修学旅
行生向けの学習コンテンツを提供する教育
ベンチャーで働き始める。その後、フリーで
平和教育を行い、「平和教育ファシリテ
ーター」として活動。2022年に問題意識を共有
する数人の仲間と「株式会社さびら」を設立。

主な経歴
「Forbes Japan 2022 世界を変える30人」に
選出、沖縄県平和啓発事業「ぴーすふるワーク
ショップ」企画・運営など。



野添 侑麻 のぞえ ゆうま

沖縄県沖縄市出身。1992年生まれ。学生時
代から沖縄戦跡巡りをライフワークとして
おり、次世代に沖縄戦を伝えるきっかけに
なれるよう、ワークショップやフィールド
ワークを開催。
主な経歴
「第3回対馬丸平和学習交流事業」運営



その他の事業内容



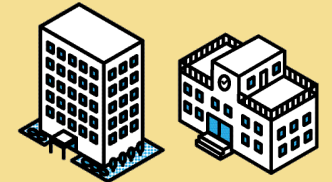
文化関連事業



「那覇文化芸術劇場なはーと」における、市民と劇場を
つなぐトーク・ワークショップ「なはーとダイアログ」
など、文化・芸術関係事業の企画・運営を行っています。
実績：なはーとダイアログ事業(那覇市)

地域のまちづくり関連事業や計画策定における、
市民と行政をつなぐワークショップや、市民講座
などの企画・運営・ファシリテーションなどを
行っています。

実績：令和5年度 宮古島市賑わい創出事業基礎調
査及び構想策定委託業務(宮古島市)
令和5年度 那覇市民協働大学院(那覇市)



まちづくり・ 地域関連事業

各種講演・講座

平和教育に関連した各種講話のほか、ファシリテ
ーション講座・プレゼンテーション講座、地域内経済循
環、LGBTQs(性の多様性)、主権者教育など、様々な内容
の講座やワークショップの開催に対応しています。

さびらのSNS

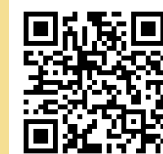
Follow us!



Facebook



Instagram



Twitter

